

# 「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里南中学校】

平成30年4月17日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

## 1 生徒が受けた調査について

「国語A・B」、「数学A・B」、「理科」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### (1) 教科に関する調査

| 〔主として「知識」〕<br>国語A, 数学A, 理科   | 〔主として「活用」〕<br>国語B, 数学B, 理科                            |
|--|---|
| 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など | 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など |

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

### (2) 生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

## 2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

### (1) 教科の正答率について (※ 全国公立中学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

|           |                               |   |
|-----------|-------------------------------|---|
| 国語A(知識)   | 基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題  | C |
| 国語B(活用)   | 基礎的な知識・技能を活用する問題              | C |
| 数学A(知識)   | 数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題 | C |
| 数学B(活用)   | 基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題          | C |
| 理科(知識・活用) | 『知識』に関する問題及び『活用』に関する問題        | C |

☆ 全国平均正答率との比較について

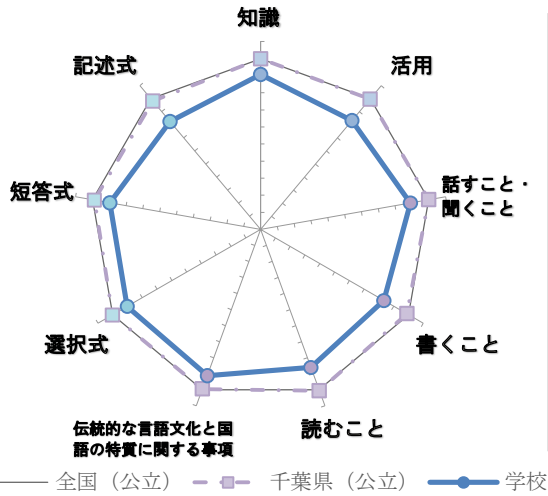
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国 語



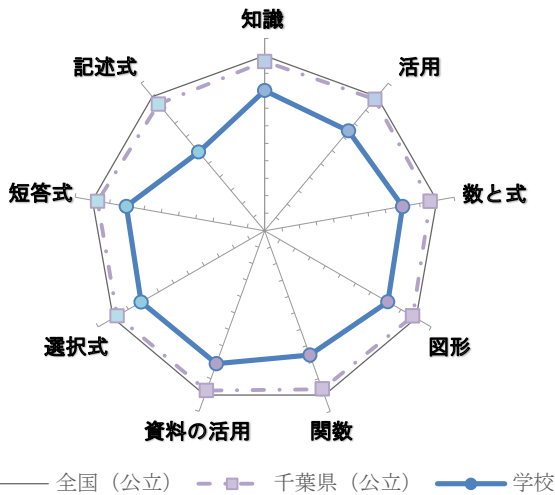
#### 【特徴と現状】

- 「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」及び「知識」では、全国平均に近づいています。
- 文章を「書くこと」や「記述式」の問題は、苦手意識が高いため課題があります。
- 「活用」することは、「記述式」に苦手意識が高いことと関連して課題があります。
- 文章を「読むこと」は、読み取る力に課題があります。

#### 【改善方策等】

- 長い文章を書くことや文章で解答することに対して苦手意識があります。授業等で、文章を書く練習を増やしたり、作文を書く指導が必要です。
- 学校では、朝に読書をする時間を設けていますが、まだ読書をする習慣が身につけていないようです。読む習慣が身に付けられるよう指導を継続し、読解力の向上に努めます。

### 数 学



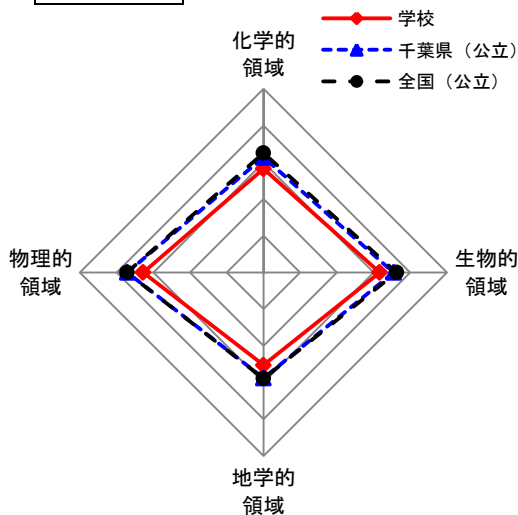
#### 【特徴と現状】

- 「記述式」の問題において大きく下回っており、課題があります。
- 「活用」の問題は、苦手意識が高く、課題があります。
- 「関数」の問題は、理解していない点が多く、課題があります。
- 「数と式」「短答式」「選択式」の問題では、全国平均には及ばないものの8割近い正答率で、昨年度とほぼ同じでした。

#### 【改善方策等】

- 基礎・基本の定着に向けて、計算問題を中心に授業ではよく演習を行っていますが、文章問題や「記述式」で解答する問題に対しては苦手意識をもっている生徒が多いようです。これは、国語の「書くこと」の項目が低いことと関連があると考えられます。文章問題や記述式解答の問題をさらに多く演習をする必要があります。
- 「関数」の問題では、授業等で理解するまで繰り返し指導するよう努めてまいります。
- 読書や作文を書く習慣や家庭学習の習慣を身につけさせ、多くの問題を解く機会を増やしていく必要があります。

## 理科



### 【特徴と現状】

- 各領域において、バランスよく全国平均と同程度、内容を理解しています。
- 観察・実験に対する意欲は高いが、技能の面で不安があります。
- 観察・実験後の考察では、根拠に基づいた思考に課題があります。

### 【改善方策等】

- 理科の授業において、器具や薬品の取扱い技能や、観察、実験に対する考察の指導に力を入れて取り組んでいますが、根拠に基づいて思考することができるよう、引き続き指導をしてまいります。
- アクティブ・ラーニングの手法による授業展開を心がけ、より主体的で対話的な深い学びの実現を目指してまいります。

### (3) 生徒質問紙の結果及び分析

- 読書時間が長いほど、国語 AB の正答率は高い傾向にあります。読書の習慣は、国語の学習に有効だと考えられます。
- 家庭学習の時間が長いほど、国語 AB の正答率と数学 B の正答率は高い傾向にあります。
- 教科書を使いながら予習・復習を行うことは、数学の学習に有効であると考えられます。
- 予習・復習をしっかりと行っている生徒ほど、国語と数学の正答率が高い傾向にあります。学力向上に向け、家庭学習の習慣化が一層重要です。
- 学校の宿題をしっかりと行うことと、特に数学 B において相関が見られました。
- 自ら計画的に勉強をすることは、特に数学の学習に有効です。また、自主的に学習を行う生徒の方が、正答率が高くなっています。
- 起床時間が不規則な生徒は、正答率が極端に低く、就寝時間が規則的なほど、正答率も高い傾向にあります。規則正しい生活習慣を身につけることは、学力の基盤になると考えられます。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒ほど、正答率が高い傾向にあります。しかし、将来の夢や目標を持つこととの相関は見られませんでした。人の役に立つかどうかを考えるとポイントになると考えられます。
- よいところを褒めることと数学 A の間で特に相関が見られました。褒めて伸ばすことが生徒の自信につながり、学力に好影響を与えているものと考えられます。
- 学校のことについて親とよく会話をする生徒ほど、国語と数学の正答率が高い傾向にあります。親とコミュニケーションをとることが学習にも良い影響を与えると考えられます。

- 地域や社会に起こっていることに関心が高い生徒ほど、国語と数学の正答率も高い傾向にありました。
- 新聞やニュースをよく見る生徒は、国語に相関関係はなく、数学において正答率が高い傾向にありました。
- 数学を大切と考え、学習内容がわかる生徒ほど正答率が高くなっていましたが、「好き」や「できるようになりたい」という気持ちとの間には相関は見られませんでした。
- 最後まで諦めずに問題を解こうとする生徒ほど、国語と数学の正答率も高い傾向にあります。授業や家庭学習で、わかるまで諦めずに学習に取り組む態度を養うことも大切です。
- 理科を大切な学習ととらえ、学習した内容を生活の中で活用できないか考えている生徒ほど、国語と数学の正答率が高い傾向にありました。科学的リテラシーの高い生徒の育成は、全体的な学力の向上にもつながると考えられます。
- 生徒は、理科の正答率にかかわらず、観察や実験が好きであることがわかりました。
- 理科の観察や実験の考察や科学的思考力、表現力が高い生徒ほど、数学の正答率が高く、数学と理科の相関がよく表れていました。
- 理科において自分の考えを工夫して発表することができる生徒ほど、国語と数学においても正答率が高いことがわかりました。授業の中で、発表の場面を多くつくることが重要です。

### 3 まとめ（課題に対する方策等）

- 学校では朝読書の時間を取り入れています。より一層、読書の習慣が身につくよう、ご家庭でもご協力をお願いいたします。
- 国語・数学ともに、文章題と記述式の問題に苦手意識が見られるので、授業においても作文練習や記述式の問題演習などの指導をさらに強化してまいります。
- 授業において、基礎基本の習得だけでなく、学習した内容を発表させたり、生活の中で活用することを考えさせたりする指導を取り入れてまいります。
- 規則正しい生活習慣が、学力向上に大きな影響を与えます。起床時間や就寝時間等、規則正しい生活ができるよう、ご家庭でもご協力をお願いいたします。
- 今年、学校では学習のあゆみを改訂し、家庭学習の手引きや計画など使いやすいものにしていきます。これを基軸に効果的な学習について考えさせたり、点検活動や呼びかけを行ったりすることを通して、家庭学習がさらに定着するように指導してまいります。